

2017(平成29)年7月
 新座市精神障害者家族会・やすらぎの会
 〒352-0023 新座市堀ノ内3-4-11
 No.203 社会福祉法人にいざ内
 ☎ 048-482-5155

「オープンダイアログ」(開かれた対話)に関わって

～前月例会に引き続き～

……6月例会報告

堀ノ内集会所 出席会員 15名

さわらび 東 玲奈さん

連日 30 度を超える暑さの中、例会に足を運ぶだけでも大変です。太陽が集会所の天窗から眩しい光を差し込んできます。エアコンを入れてやっと落ち着きます。冷たいシソジュースが爽やかでした。(Uさんの手作り)

「報告とお知らせ」の中に「精神保健福祉法改正案」に対する団体や地方新聞の批判的な見解がたくさん出されているという話がありました。6/23の「東京新聞」朝刊5ページの「発言」欄には、～閉塞生む過剰な「安全」～という見出しで星丘匡史さん(新座市生活支援センター)の投書が載っていました。……周囲の不安をあおり安全のためと、管理・監視を強化し、その人の自由、権利、尊厳を奪っていくことになる。……と警鐘を鳴らしています。また、6/26 埼玉県議会本会議でも地元の吉田県議さんがこの法案について発言をされていました。(やすらぎの会から3名が傍聴に駆けつけました)

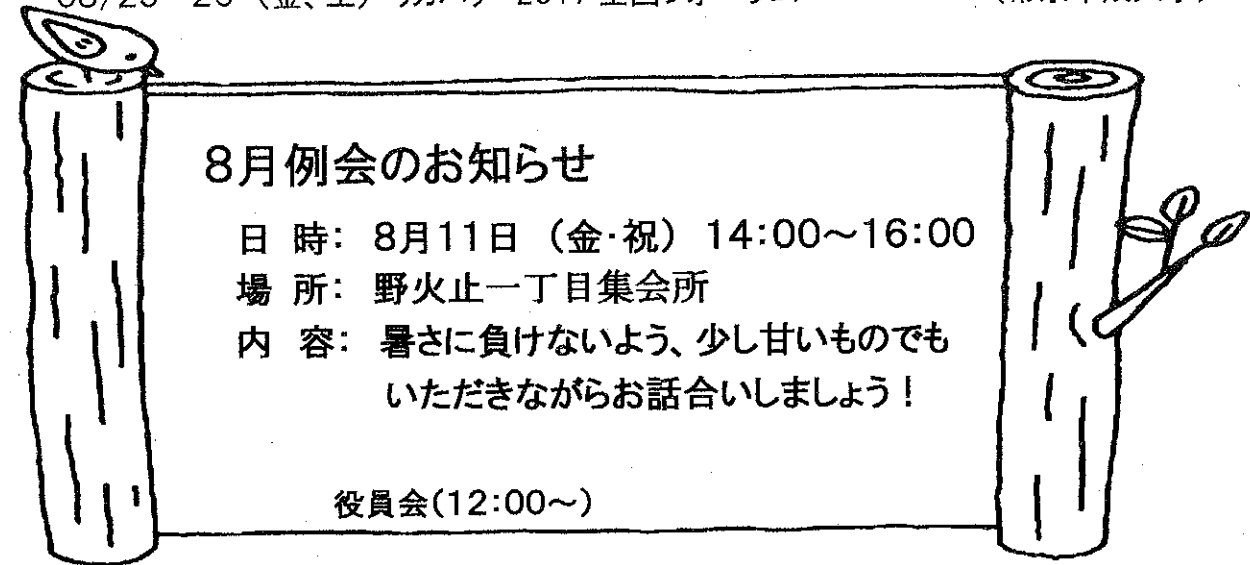
話し合いの中で: 以前は「カウンセリング」と薬だったような気がするが、今は「対話」が重視されている。当事者に気づかせ、自分で解決させる。その人が苦しんでいることに焦点を当てて、互いに対等の立場で話し合う。その問題に本人が気づくことが大事。日本人は対話が苦手だが……。当事者と話し合うとき、こちらの話押し付けずに、聴くことを大事に。

「話してよかったね。」「お母さん、話してくれてありがとう」これって、対話の力かな。気持ちが落ち着くまで、30分も話を聞いてあげると落ち着いてくる。「お母さんと話したら、いろいろ考えたことがスツとした」

対話の力を実感した例がいくつも出されました。話すことで、薬が減れば、という声もありました。「対話」の大切さについては、これからも心に留めて考えていきたいですね。

【今後の予定】

- 07/14 (金) 埼家連相談員研修会 13:00～16:00 (所沢どんぐりの家)
- 07/14 (金) 日本国憲法施行70年と障害者 13:00～16:00 (参議院議員会館)
- 07/21 (金) 埼家連役員会・理事会 10:30～15:30 (県交流センター)
- 07/25 (火) 福祉フェスティバル実行委員会 15:00～16:00 (市民会館会議室)
- 07/27 (木) ボランティアまつり実行委員会 14:00～ (第3庁舎2階会議室)
- 08/04 (金) 家族相談 13:00～16:00 (支援センター相談室)
- 08/11 (金) 8月例会(役員会12:00) 14:00～16:00 (野火止一丁目集会所)
- 08/25～26 (金、土) リカバリー2017全国フォーラム (帝京平成大学)



8月例会のお知らせ

日時: 8月11日(金・祝) 14:00～16:00
 場所: 野火止一丁目集会所
 内容: 暑さに負けないよう、少し甘いものでも
 いただきながらお話し合いしましょう!

役員会(12:00～)



毎月第1金曜日 13:00～16:00

相談は15:30までにおいで下さい

8月は8月4日(金)です 場所:にいざ支援センター相談室

予約される場合は鶴飼(080-1053-7816)まで

例会に出席できない方、ゆっくりお話したい方もお出かけ下さい。

当番の家族相談員がお待ちしています(6月の当番:佐藤・矢野)。

※ 埼家連の「心をつなぐ家族電話相談」もご利用ください

☎ 080-6685-2128(携帯)

相談日 毎週 月～木(金、土、日、祝日 は休み)

10:00～12:00 13:00～15:00



オープンダイアログ連続講座を受講して



6月と7月の例会で学習した「オープンダイアログ（開かれた対話）」については何年か前から興味がありましたが、薬を用いず入院もせずに統合失調症が治る！??…とても信じられませんでした。

そこで、7月2日と8日に行われたNPO法人ふらじゃいる（当事者が作ったNPO）が主催した「オープンダイアログ連続講座」に参加しました。

有料の講座にもかかわらず、120人定員の会場がほぼ満員でした。受講者は当事者や支援者などの専門家も多く、関心の高さを感じました。

オープンダイアログは開かれた対話と訳され、主に統合失調症の急性期の患者や家族から連絡が入ると医師や看護師などの治療チームが24時間以内に自宅などへ訪問します。患者、治療チーム、家族、友人らを交えて対話を重ねることで統合失調症の危機的状況を抜けて快方に向かうというものです。

概要については、たより202号（6月号）に載っていますので参考にしてください。

第1回 講師：べてるの家 向谷地生良氏「べてるの家のフィンランド訪問」

1978年にイタリアで精神科の病棟を無くし、1980年代前半にフィンランド北部・西ラップランド地方にあるケロプダス病院でオープンダイアログが始まり、同じ頃、北海道の浦河では「べてるの家」ができました。べてるの家では「三度の飯よりミーティング」といって何か困ったことがあると都度みんなで話し合うことを実践していて、どちらも「対話」を重視しています。

そして2001年から始まった「べてるの家の当事者研究」と「オープンダイアログ」は画期的な試みという点で共通するものがあると思います。

世界の潮流として精神科医療は今、カウンセリングや薬物療法から対話重視へということなのでしょう。オープンダイアログにはいろいろな国の専門家も注目しているようです。

第2回 講師：筑波大学 斎藤環氏「ケロプダス病院のオープンダイアログ」

オープンダイアログの特長は、「比較的誰にでも実践できるシンプルな方法で、薬物や入院などの必要性を減らせること」です。

オープンダイアログの重要な原則は、「本人抜きではいかなる決定も方針も出さないこと」それらの決定はすべて、本人がいる対話の場で決められます。これは今の精神医療の現場と大きく違う点です。

対話の場で、専門家同士が意見交換するリフレクティングの時間が設けられます。治療方針について専門家が話し合う姿を本人や家族に見てもらい、本人はそこでヒントを得て、自発的な決断ができるということでした。

会場から当事者、父親役、母親役を募り、医師、支援者2名の計6名でロールプレーが行われました。しっかりと人の話が聞けて安定している当事者でしたので、スムーズに対話が進んでいましたが、急性期で混乱している状態の時はどのように進めていくのかも見たいと思いました。

オープンダイアログには特別な技法はいらないので、部分的にでも実践してみてください、そして始めたら途中でやめずに続けること。だそうです。

斎藤先生のお話は、ユーチューブでも見られます。著書も出ています。ネットでオープンダイアログを検索するといろいろな情報が得られます。興味のある方は是非ご覧ください。（鶴飼）

研修会のお知らせ

リカバリ全国フォーラム2017

日時：8月25日(金)～26日(土)
会場：帝京平成大学 池袋キャンパス 本館
参加費：家族 ●事前申込 5000円(コンボ賛助会員3000円)
●当日参加 6000円(コンボ賛助会員3000円)

★ 記念講演
【支援サービスの《見える化》とリカバリー】の先に
私たちがめざすもの

★ シンポジウム
これからの10年に私たちがめざすもの：
「見える化」の実質化と確かなネットワークの形成

★ 分科会
25日、26日それぞれ 11の分科会があります。

参加申込 期限：7月31日(月)
参加希望の方・分科会の内容は
会長一之瀬さんに連絡して下さい。